



千葉県科学館

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第7回

千葉市科学館(千葉市)

インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

日常の身近なところから科学へ 科学を体験する参加型科学館

千葉市科学館は、日常の視点で科学を捉え体験していただくことで子どもから大人まで楽しめる参加体験型科学館です。当館の大切なテーマは「日常の身近なところから科学へ」というもの。ここを訪れた人たちが日常のありふれた現象や何気ないことの中に科学を発見し、科学に親しむ機会を作っていただくことを目的とした場所です。

科学は、難しいもの、自分とは遠い世界のもの、と感じる方も多いかもしれませんが、実は私たちにとって、とても身近な存在なのです。身の回りで起きる小さな現象、宇宙レベルの現象、そしてびっくりするような先端技術も、もとは単純明快、とてもシンプルな科学の原理に基づいています。当館は科学を、勉強からではなく、科学が起こすさまざまな現象を楽しく体験し、その向こうにある科学に興味を持っていただければと思っています。

当館での体験を通して少しでも科学の視点を持っていただくと、皆さんの身の回りで起きていたごく普通の出来事、現象が、きっと全く違うものに見えてくるはずです。実際、当館で科学的な体験をさせているたくさん子どもたちの姿、楽しそうな表情を見ていると、そんな期待をしまいます。

もちろん当館は子どもたちだけでなく、大人の皆さんにとっても見応え十分な場所です。科学によって実現した世の中の道具や技術、そして地球単位の現象まで、知る楽しみを存分に体験できると思います。

また、1年を通してワークショップなどさまざまなイベントも行われていて、おかげさまで年間40万人を超えるたくさんの方にご来館いただく人気のスポットとなっています。



千葉市科学館
館長補佐 栄井 隆典さん



千葉市科学館とは？

千葉市科学館が設立されたのは2007年。以降、参加体験型科学館として多くの方に科学の魅力を伝え続けています。2022年には常設展示の一部をリニューアル。実物大レプリカの有人潜水調査船「しんかい6500」や南極のニュートリノ検出器「アイスキューブ」シミュレーター他、多数の展示が加わり、さらに魅力がアップしました。

ハイブリッドプラネタリウム

千葉市科学館のプラネタリウムは、2025年1月にリニューアルしました。光学式の恒星投影機とCG映像を映し出すデジタル式プラネタリウムを同時に使うハイブリッド方式のプラネタリウム施設です。



インタビュー
“中の人”に
聞いてみました

身近な現象から宇宙まで、フロアごとに広がっていく科学の世界

150もの体験展示がある常設展示は、来館者が現象の数々に対して気づきを共有することを目指し、ふとした日々の疑問や何気なく見過ごしている現象を、その背景にある科学と結びつけて紹介しています。楽しみながら触ったり、操作したり、声を出したりという体験を通して、「これも科学だったんだ」と自然に感じられるようになっています。

7階から10階の各フロアは階を上がるごとに、身近な現象から科学が活かされた製品や機械、そして地球、宇宙へとその興味の対象、科学の視野が、どんどん広がっていくような仕組みになっており、各フロアでたくさんの「体験」が用意されています。

科学館で実施している講座やプラネタリウムの投影番組は、高校生や大人を対象としたプログラムもあり、幅広い年齢層の方に楽しんでいただけます。科学に関連するグッズを豊富に取り揃えたミュージアムショップも見応えありです。どうぞお見逃しなく！



千葉市科学館
広報担当 鈴木 理沙さん

有人潜水調査船「しんかい6500」コーナー

9階「テクノタウン」には、深さ6,500mまで潜れる潜水調査船の実物大模型が展示してあります。コックピットへの乗船体験、ロボットハンド「マニピュレータ」の操作体験もできます。



複合施設「Qiball(きぼーる)」の7階から10階が千葉市科学館となっています。

視覚・音・光・数などの日常の中にある不思議を科学的に楽しく学べる、8階「ワンダータウン」。身近な機械や製品の裏に隠された技術と原理をわかりやすく解説している、9階「テクノタウン」。地球や宇宙、そして自然、生命の不思議を体験・実感できる、10階「ジオタウン」と、階を上がるごとにどんどん広がる科学の世界は見応え十分です。

そして、7階にある大人気のプラネタリウム。ここでは最新鋭の投影機が導入され、1億個を超えるリアルな星空を演出し臨場感たっぷり！大迫力の映像に思わず見入ってしまうはずです。



▲8階「ワンダータウン」にある、「逆を向く小鳥」。鏡の中では小鳥が逆を向いていて、とても不思議です。



▲9階「テクノタウン」の日本のフリーフォール型深海探査機「江戸っ子1号」実物展示コーナー。



▲10階「ジオタウン」の南極のニュートリノ検出器「アイスキューブ」シミュレーターの展示。



▲10階「ジオタウン」にある、小惑星探査機「はやぶさ2」のコーナー。

●問い合わせ／千葉市科学館

千葉市中央区中央4-5-1 複合施設「Qiball(きぼーる)」内7階から10階 TEL.043-308-0511

すごい!このホンモノを見逃すな!

プラネタリウム

これ見て!



千葉市科学館の、エントランスのある7階には大人気のプラネタリウムがあります。

中に入ると、200席の座席が並び、その中央にコンパクトな投影機。そして見上げれば直径23mの丸い天井が会場を包み込むように広がり、不思議と安心できる空間を作り上げています。

2025年に導入された投影機は、世界でも15機しかない(導入時)という最新鋭の「ケイロンⅢ」という機器で、天の川の構造も再現できる1億個の星を映し出すことができます。1億個! 私たちが目にしている夜空にそんな数の星(たぶんもっとたくさん!)が輝いているという事実にもちょっと驚かされます。

プラネタリウムでは不動の人気、解説員が当日の星空を生解説する「星空散歩」をはじめ、1年を通じてさまざまな番組が投影されています。来館者による人気番組投票を見ると、上位にはテレビアニメとのコラボ企画の番組も並んでいます。お子さま連れのご家族が多く楽しまれているのでしょう。

そして何と、この素晴らしい空間を利用した音楽コンサートやアロマ、ヨガも開かれているとか。星空と組み合わせた音楽とヨガ。何かとても癒されそうなイベントです。

イベントに行ってみよう!

こんなイベントや講座をやっています



千葉市科学館では、1年を通してさまざまなワークショップやイベントが開かれています。各フロアのカウンターで毎日実施されているワークショップのほか、土日講座、サイエンスショー、年齢層に合わせた講座、専門の講師による講演会、そして季節ごとの企画展や特別展も。何度来ても新しい体験が皆さんを待っています。



▲「[講座] 大人が楽しむ科学教室」の様子



▲実験室や工作室では、参加型講座を開催しています

《もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館》今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第7回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、千葉市科学館に展示されている実物大模型の有人潜水調査船の名は何でしょうか。次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① しんかい2000
- ② しんかい6500
- ③ しんかい12000

取材協力・撮影協力・写真提供／千葉市科学館

プラス  で、未来をともし。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌

検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント

@keiyobk_official



X 公式アカウント

@keiyobkofficial



2025.7
(次回発行予定/
2025年8月20日)

正解は→② しんかい6500